

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.135

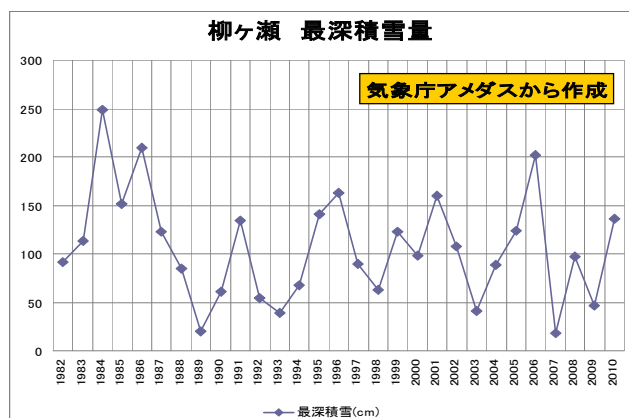
2011/02/20

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

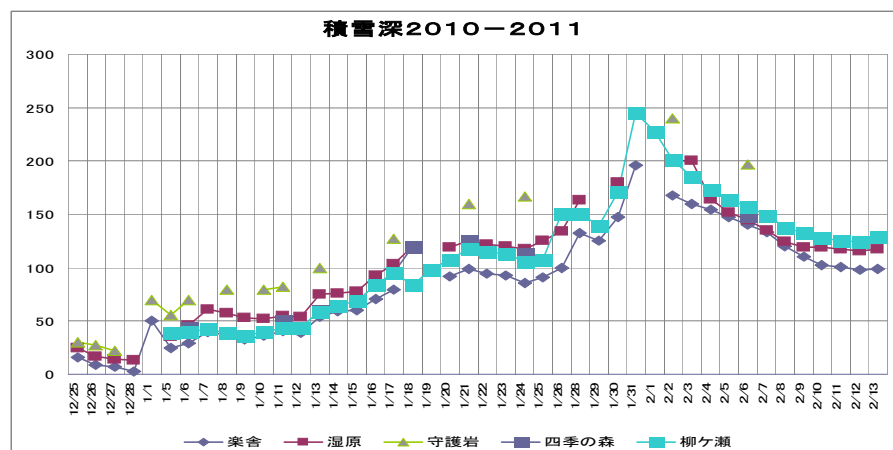


ス々の豪雪・湿原で2mを超える

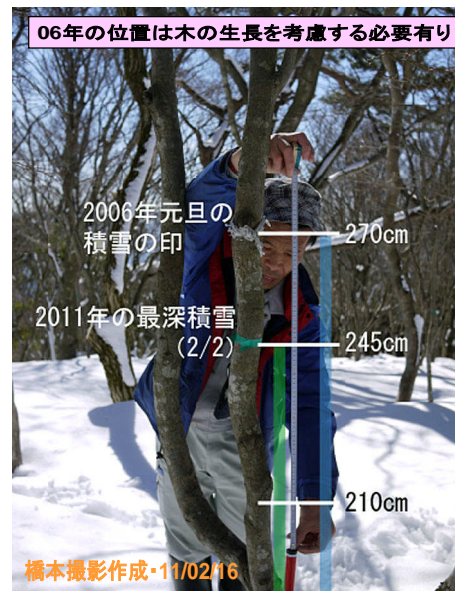
北部湿原から総見山を望む(11/02/01)



2006 年元旦の守護岩の積雪深は 220 cmでした（最深ではない）その時のマーク位置が今では 270 cmになっています（右画像）。今年は 240 cm。

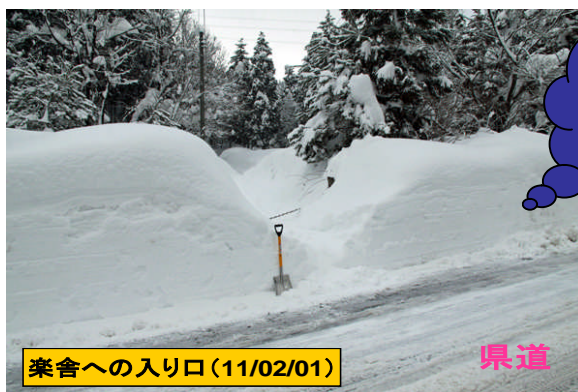


2 月 1 日湿原での積雪深が **216 cm**でした。久々の豪雪であった。左のグラフは余呉町柳ヶ瀬 1982 年から 2010 年までの年間最高積雪深です。この間の最高積雪深は、1984 年の 249 cm、続いて 2006 年の 202 cmでした。柳ヶ瀬の記録を持ち出したのは、過去の湿原での積雪深と柳ヶ瀬のそれとがほぼ同じ（今年の計測では、湿原は柳ヶ瀬より平均 4 cm多い）であり、会員諸氏の家庭で気象庁の HP から「柳ヶ瀬」の積雪深を見ることで湿原の積雪深を予想できるからです。柳ヶ瀬での積雪深の測定期間が短いですが、グラフからは全体として積雪深の現象が読み取れます。これもいわゆる温暖化の現れとみることもできます。下のグラフは、今冬の森と柳ヶ瀬の積雪の実測値です。





里の雪下ろし(11/02/01)



楽舎への入り口(11/02/01)

豪雪寸景

積雪が 2m を超えると地表の微細な凹凸は消えのっぺりした景色に変

県道

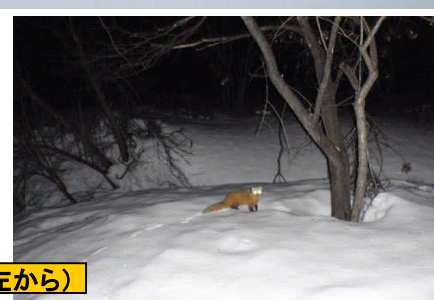


2mを超えた湿原の積雪(11/02/03)

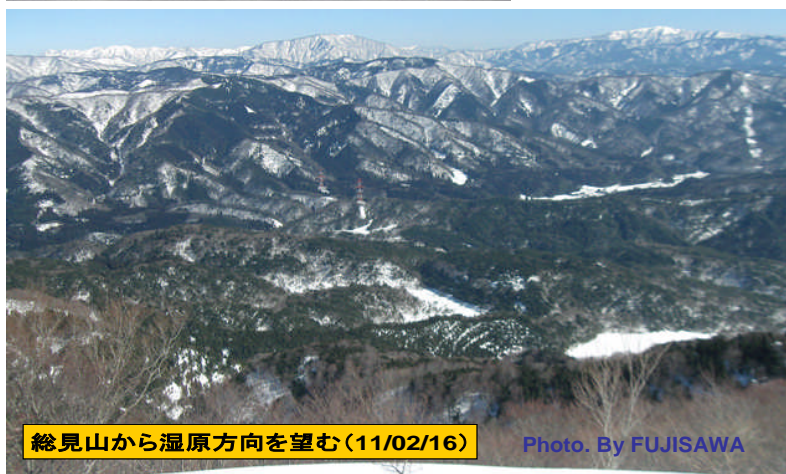
わる。特に湿原では、とても積雪が 2m を超えているとは思えない。積雪の初期段階では、森のあちこちで見られた動物の足跡も激減する。その中で目立つのはノウサギやニ



雪に埋まった楽舎(11/02/01)



固定カメラがとらえたキツネ・ノウサギ・テン(左から)



総見山から湿原方向を望む(11/02/16)

Photo. By FUJISAWA



総見山から伊吹山方向を望む(11/02/16)

Photo. By FUJISAWA

快晴の 2 月 16 日森林レンジャーの二人が、積雪の総見山に登りました。遠く伊吹山から湿



「しぶき氷」と沢の流れ(11/02/12)

原までが望め、湖北の中で山門水源の森がどんな位置にあるかを確認しました。ただこのコースは、守護岩から総見山のある尾根へ出る直前が絶壁で、この時期の登山は勧められません。登れば絶景が待ち受けているのですが。

冷え込んだ朝の沢沿いの芸術鑑賞 2m を超えた積雪も日に日に解けています。この時期の観察の目玉は、沢沿いの「しぶき氷」です。放射冷却で冷え込んだ早朝の沢では、様々な形状の氷柱が造られます。沢の流れ・滝の落ち具合・周囲の植生等様々な条件によって形状が異なります。また日差しが当たり出すと、氷柱の色合いが光の干渉で微妙に変化します。